

**製品名:** リン酸化デルタ 1 カテニン (Tyr228) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe01547

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, IP
反応性	ネズミ、ハムスター
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000, ICC/IF 1:50-1:200, IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 108 kDa; Observed MW: 95,100 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CTNND1
別名	CAS; p120; BCDS2; CTNND; P120CAS; P120CTN; p120(CAS); p120(CTN)
遺伝子 ID	1500
SwissProt ID	O60716
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

**背景**

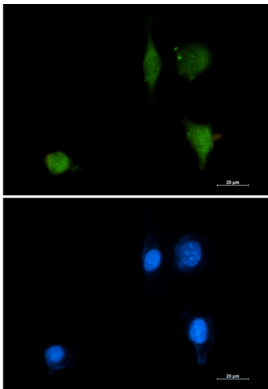
カテニン  $\delta$ -1 (p120 カテニン) は、アミノ末端にコイルドコイルドメインを有し、これに複数のリン酸化部位を含む調節ドメイン

と、42 アミノ酸の繰り返し配列が 10 個連結した中央のアルマジロリピートドメインが続く。カルボキシ末端の末端には既知の機能は存在しない。カテニン  $\delta$ -1 は、細胞表面における E カドヘリンのターンオーバーを制御し、細胞間接着に利用可能な E カドヘリンのレベルを決定することで、細胞間接着の制御において重要な役割を果たしている。

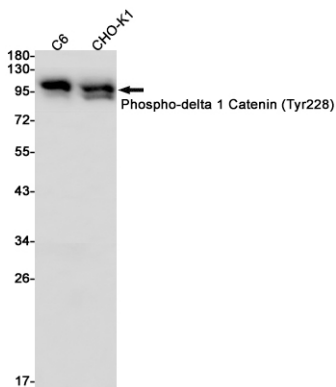
## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



リン酸化デルタ 1 カテニン (Tyr228) 抗体および DAPI (青) を使用した、SKOV-3 におけるリン酸化デルタ 1 カテニン (Tyr228) (緑) の免疫細胞化学分析。



ホスホデルタ 1 カテニン (Tyr228) 抗体を使用した、C6、CHO-K1 溶解物中のホスホデルタ 1 カテニン (Tyr228) のウエスタンブロット分析。